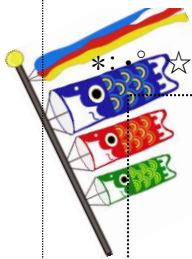




みらいっうしん

5月号

2018年5月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 長南 康子



【春来草自生】(はるきたらばくさおのずからしょうず)

新緑が美しい季節を迎えています。禅語に「春来草自生」という言葉があります。直訳すると「春がくれば自然に草木が芽吹く」という意味です。園庭のそこそこに、新緑の芽が顔を出しています。雪の重みで、もう枯れてしまったと半分、諦めていた植木に緑の芽吹きを見つけた時、その嬉しさを誰かに伝えたいほど幸せな気分になります。

さて、新しい生活環境の中で子ども達は、少しずつ自分の居場所を見つけ、楽しい時間を増やしていっています。しかし、新入園児にとって命の絆である保護者から急に離れなければならない時間・生活に大きな不安や戸惑いを感じることは当然のことです。また、保護者の方にとっても、特に、食事や睡眠、排泄などの基本的な生活習慣の場面において、今までお子さんのそばにいて一対一で関わり、接することが常であったことから、「園でどのような様子で食事をしているのだろうか?」「どのように寝付いているのだろうか」とお知りになりたいことがたくさんあるのではないかと思います。

子ども達にとって、部屋の空間、テーブルの大きさ・数、同年齢の子ども達、大人の関わり等々、家庭とは異なることばかりです。そのような環境、雰囲気の中で過ごしている子ども達が周りの様子を見ながら、自分を保とうとしている姿に感動すら覚えます。一人一人の気持ちに寄り添うことを基本にしながら、集団での生活に馴染んでいけるように工夫や配慮をする保育者の姿からも、ついさっきまで、賑やかにお昼ご飯を食べていた子ども達が全員「スヤスヤ」と穏やかな表情で眠っている姿を見て「神業!」と思わず叫んでしまうこともあります。

小さな子ども達にとって、乗り越えられるであろうステップをよく見極めて、その時々で寄り添い、支えながら成長を見守っていきたいと思います。

子ども達は春に限らず、折々で、きっと自ら秘めている芽(力)を私たちにたくさん見せてくれることでしょう。楽しみです。

(長南)



春の訪れとともに今年は、すももの木にてんとうむしの幼虫が大量発生しました。にじ組の子ども達は、ビールケースを重ね、高い枝に手を伸ばして、採集に夢中になっています。「ぼくがのぼるから、しっかりもっててね。」と、捕まる子、支える子、ケースに入れる子と役割分担をしっかりとしていました。虫や草花などの自然と向き合う時、子ども達は、あらゆる知恵を絞りだし、頭をフル回転させているようです。その姿を見て、ほし組、そら組の子ども達も見よう見まねで柄の長いシャベルを持ち、自分の手で幼虫を捕まえようとしています。虫や草花は、子ども達の不安や緊張を解きほぐしてくれる貴重な存在です。自然が身近にある緑、豊かな園庭づくりをしていきたいと思っています。

副園長 中城真由美

